

清流

題字：芳野 充

平成29年8月30日
第8号

発行所 加来不動産(株)
発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

「はい」の二文字に心はあらわれる

『「はい、わかりました」
この「はい」という返事は、漢字の「排」。つまり、「障害物を排除する」というときに使う「排」の字につながります。
ここで「排除」すべきは、自分自身であって決して他人ではありません。自分のわがままや、いら立つ感情をすて去るためのかけ声こそが「はい」という返事です。』

これは、わたしが師事する池田繁美先生の著書『素直な心に花が咲く』の一節です。たった二文字の「は」と「い」の言葉ですが、そのときの心の状態が顕著にあらわれるものだと実感します。

たとえば、外食した際の店員さんの「はい」という受け答え。家族できおり外食をしますが、店内にお客さまがおおく店員さんもバタバタしているときに声をかける場面で、おなじ「はい」でも、この人はとても気持ちのよい返事をかえしてくれるなあ、きつと接客業が好きなんだろうな、また来よう、と思わせる人と、「忙しいのになんでこのタイミングで声をかけるんだ」と言わんばかりの口調で「はい」とこたえる店員さんがいます。当然ながら、そのお店からは足が遠のいてしまいます。

一方で、家庭で妻や子どもたちに対してのわたしの返事はいかがだろうか、と思い返したとき、読みたい本を読んでいるタイピング、あるいはみたいテレビ番組をみているときなどに家族から声をかけられると、聞こえないふりをしたり、「ああく」と気持ちのこもってない返事に加え、相手のほうもみないことも多々あるな、と反省します。

忙しいときに呼びとめられた店員の不機嫌な「はい」と、わたしの家庭内での返事に共通することは、マイナス感情や自分のしたいことを優先してしまっていることです。そう考えると自分では気づきませんが、いろいろな場面で人に不快さを与えているかもしれない、とこわくなります。

「は」と「い」のとても短い二文字ですが、この二文字に人の心はあらわれる。このことを意識し気持ちのよい「はいっ」を相手に向けたいと思います。明るく気持ちのよい「はいっ」が家庭内にもとびかうことを願います。いま、わが家の洗面台のカガミには「はい、という明るい返事」と書いた紙が貼ってあります。まずはわたしが良いお手本となるよう、がんばります。

加来 寛

